

●地球市民の6観点

- ① 自己と他者：私とは誰なのか/私(私たち)が私(私たち)であることをどう証明できるか/彼(彼ら)は何者か?
彼が私と異なる・同じであることをどう受け止めることができるか
- ② 時間と空間：時間と空間は「世界」をどのように形作り、その隔たりを超えてきたか/人類は時間と空間を
どのように把握し、受け止め、そして抗ってきたか?
- ③ 個人的表現と文化的表現：美、価値を①や②を超えてどこまで共有できるか/人は個の美意識や価値観を
どう表現し、他者のそれをどのように受け止めてきたか
- ④ 科学と自然：世界(自然界)はどのように出来上がっているか/科学の発展、開発にはどのような可能性が
あり、危険性を孕んでいるか
- ⑤ 公平性と発展：私たちは有限な資源をどのように共有することが出来るか/発展する公平な社会(関係)は
どのようにして創り出さうか
- ⑥ グローバル化と持続可能性：人、社会はどのように繋がっているか、繋がり得るか/ローカルなプロセスと
グローバルなプロセスはどのように繋がっているか

●開講予定講座一覧

	担当者所属学科	講座名	主たる観点	併せ持つ観点
1	国語科	震災文学を読む	②	④
2	国語科	国民主権と政治参加 ～民意を動かすことばのちから～	⑤	①③⑥
3	国語科	日本近現代における表現の流れ	⑥	①③
4	国語科	「世界」をつかむ ～語りの構造～	②	①③⑥
5	社会科	自分探しとふれあいの心理学	①	⑤⑥
6	社会科	グローバルヒストリーでみる世界	⑤	⑥
7	社会科	起業家養成塾	⑤	③⑥
8	社会科	エシカルを考える	⑥	⑤
9	数学科	パラドクスから見る人間社会	④	①②③⑤⑥
10	数学科	状況下をえがく文学作品、映画をよむ	②	①⑤
11	理科	「人」たる「ヒト」を探る	④	①⑥
12	理科	環境化学入門	④	⑤⑥
13	芸術科	美術史における絵画表現の研究	③	①⑥
14	芸術科	ピアノ演奏法	③	①②
15	芸術科	音楽と社会のつながりを考える - 「音楽アウトリーチ」活動を通して -	③	①②
16	外国語科	人間以外の動物との共生	①	⑤⑥
17	外国語科	Language, Laughter and Humor	③	①
18	外国語科	多文化共生と日本語教育	⑥	①⑤
19	家庭科	現代の和服	③	⑥
20	情報科	プレゼンテーション演習	③	①②

科目名	震災文学を読む			教科名	国際（地球市民Ⅰ）	対象年次	2年次
分類	選択必修	主たる観点	②	併せ持つ観点	④	単位数	1
履修条件	特になし						
履修上の注意事項	科目的な面や、技術的な面における条件は特になしだが、毎回の授業で内容の深部にかかわる問いに取り組むため、相応の耐久力が求められる。						
校外研究	なし			研究旅行	なし		
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）	1000円程度		内訳 文庫本2冊分				

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

阪神淡路大震災・東日本大震災の後に書かれた物語をとりあげながら、このような震災文学を通じて人はどのように現実に対峙してきたのかを学ぶ。講座担当が自身の経験（国際協力 NGO での職務経験）を交えながら、人間の営みと文学とのつながりを、〈想像力〉という語を中心に据えながら探っていく。

毎時、授業内課題に取り組み、物語の展開を読み解きながら、随時考えを全体に向けて発表する。これを繰り返すことで、文脈を意識しながら「読む」力を養うとともに、限られた時間で自身の考えを言語化し、論理的に構築したうえで他者へ伝える能力も身につけることを目指す。他者の考えにも触れることで、論理の組み立て方や、そもそもの課題へのアプローチの仕方が多様であることを知り、他者のアイデアを参考にして自身の考えの再構築もおこなう。

このような活動をおこなうため、授業内課題においては「思考スキル」「リサーチスキル」「コミュニケーションスキル」をフル活用するのはもちろんのこと、「ソーシャルスキル」について意識することで、ミクロにとどまらずマクロにも適用されるような「読み」と「表現」ができるようになることを目指す。

毎授業の課題と期末エッセイへの取り組みについて、提出物の体裁や参考文献の扱い方などを中心に「自己管理スキル」の獲得を目指す

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期 or 3期	村上春樹『神の子どもたちはみな踊る』		作品を読みながら、出題される問いについて探求し、個人の内部で練り上げられた言葉をアウトプットすることを繰り返す。
2期 or 4期	いとうせいこう『想像ラジオ』		

【評価方法】

観点	割合	評価方法
知識・技能	40%	期末エッセイ
思考・判断・表現	40%	期末エッセイ
主体的に学習に取り組む態度	20%	授業内課題提出 10+期末エッセイ 10

科目名	国民主権と政治参加 ～民意を動かすことばのちから～			教科名	国際（地球市民Ⅰ）	対象年次	2年次	
分類	選択必修	主たる観点	⑤	併せ持つ観点	①③⑥		単位数	1
履修条件	特になし							
履修上の注意事項	特になし							
校外研究	なし			研究旅行	なし			
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）	なし			内訳				

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

被害者という当事者の視点から、全国犯罪被害者の会あすの会代表 岡村勲弁護士のインタビュー視聴、久保田のフランス裁判の経験から当時の日本とフランスの裁判、法律改正前の日本の法律や裁判を知る。グループワークによりあすの会の活動と法律改正についての課題に取り組み、正しい情報をリサーチできることをテーマにスライドを作成し発表。法律家の視点から米田弁護士の講義と質疑応答、マスコミの視点から、読売新聞記者南原氏の講義と質疑応答、期末エッセイという授業の展開の中で、リサーチスキル・コミュニケーション・ソーシャルスキル・思考スキルを伸ばしていくことを目標としています。

マスコミの視点の単元に取り組む前に、評論文 森達也「真実はひとつじゃない」600-800字程度の感想&意見レポート提出、また、グループワークスライド提出、期末エッセイ提出では、自己管理スキルを評価します。

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期 or 3期	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く力、読む力 ・理解力と言語技術力、表現力を養う 	<p>①法律改正前の日本の法律や裁判を知る。 講座担当の久保田が経験した、フランスの裁判制度について経験者の視点で語る。あすの会が発行した「ヨーロッパ調査報告書」から知ったフランスの付帯私訴と陪審制、原告参加裁判の制度を資料をもとに経験と照らし合わせ、当時の日本の法制度の違いを講義。被害者になって知った、被害者の方々のマスコミによる報道の二次被害について、マスコミで働いていたがゆえの葛藤もふくめ紹介する。</p> <p>②評論文 森達也「真実はひとつじゃない」600-800字程度の感想&意見レポート提出</p> <p>③全国犯罪被害者の会 あすの会代表幹事 岡村勲弁護士のロングインタビュー～あすの会はなぜ法律改正を成し遂げることができたのか～視聴</p> <p>③グループワーク&発表 岡村弁護士のインタビューを踏まえ、あすの会の活動、なぜ運動が成功したか。日弁連はなぜ反対したか。また現在の新あすの会の回収庁設立の提案を正確な情報をリサーチし、考察し グループ発表を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く力、岡村弁護士のロングインタビューから当事者のことばの重さ、また正確な情報をリサーチするということを考えながら実践する。

2期 or 4期	・聞く力、書く力、思考力、理解力と言語技術力、表現力を養う。	<p>③あすの会顧問弁護士の講演</p> <p>I 法律改正時の反対意見についての法律家としての視点。</p> <p>II 被害者参加制度のもとでの現在の刑事裁判について</p> <p>III 新あすの会の取り組み、北欧の回収庁の調査報告と賠償の強化について。</p> <p>質疑応答</p> <p>④マスコミの視点から 読売新聞の当時あすの会を取材指定きた記者の講義、報道被害、マスコミの使命について</p> <p>⑤レポート提出 「死刑廃止制度についての考察。」賛成か反対か、理由とまたどちらかを支持する際に条件付きの場合の提案について。</p>	
----------------	--------------------------------	---	--

【評価方法】

観点	割合	評価方法
知識・技能	40%	レポート
思考・判断・表現	40%	レポート
主体的に学習に取り組む態度	20%	ミニレポート提出点。グループワークレジュメ提出点。

科目名	日本近現代における表現の流れ			教科名	国際（地球市民Ⅰ）	対象年次	2年次
分類	選択必修	主たる観点	⑥	併せ持つ観点	①③	単位数	1
履修条件	特になし						
履修上の注意事項	特になし						
校外研究	なし（予定）			研究旅行	なし		
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）	3000円程度		内訳 書籍購入				

【学習内容と目標（5つのスキルをう伸ばすか）】

日本近現代の文学史を概観しながら、主要な作品を読み、分析します。まずは近代から現代までの表現の流れを理解し、個々の作家の方法についての理解を深めることを目指します。様々な作品を読む中で、日本語の言語的特質や、創作という活動の本質について考察できればと思います。その上で、小説以外のジャンルの作品にも広く触れ、創作や表現について多角的に考えたいと思います。表現という一見個人的な営みが、どのように社会と接続しているのか、具体的な創作物の検討を通して考察し、自分なりの答えを導き出すことを最終的な目標とします。

この授業では、課題に真摯に取り組むことで、5つのスキルを偏りなく伸ばしていくことを目指しています。作品の解釈を通じて「思考スキル」を伸ばし、読解に必要な文献を調査して「リサーチスキル」を身に付け、他者と意見を共有しあう中で「コミュニケーションスキル」「ソーシャルスキル」を磨きます。また、全ての取り組みにおいて、「自己管理スキル」が必要となります。

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期 or 3期	作品を読む	日本近現代の文学史を概観し、主要な作品の表現方法を分析する。 ※時間に余裕があれば、小説に限らず詩・戯曲・映画・漫画など幅広いジャンルの作品を取り上げたい。	<ul style="list-style-type: none"> 資料調査 口頭報告 作品解釈
2期 or 4期	レポートを書く	一期で扱った作品、または関連する作品から一作品を選択し、解釈を深めて期末レポートを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> 作品解釈 資料調査 レポート執筆

【評価方法】

観点	割合	評価方法
知識・技能	20%	期末レポートの内容を評価する。
思考・判断・表現	60%	期末レポートの内容を評価する。
主体的に学習に取り組む態度	20%	授業内課題や、期末レポートに取り組む姿勢から総合的に評価する。

科目名	「世界」をつかむ ～語りの構造～	教科名	国際（地球市民Ⅰ）	対象：2年次 単位数：1
選択必修	主要な視点：②（時間と空間） その他の視点：①「自己と他者」、③「個人的表現と文化的表現」、⑥「グローバル化と持続可能性」			
履修条件	特になし			
履修上の注意事項	特になし			
校外研究	あり：博物館、催し物等の見学	研究旅行	なし	
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）	3,000円（施設入館料、体験参加費等）			

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

「私たち人間は着実に進化している」「現代は進歩した社会であり、古代は未開の未成熟な社会だった」、これらは本当に正しい捉え方か？ こうした考えが正しいのなら、今も紛争が絶えず世界が混乱しているのはなぜなのだろう？ 古代の社会システムは現代のそれと比べて、未熟で不完全なものだった。みんなこれを当然のように受け止めているが、その証拠はどこにあるのだろうか。

この講座は20世紀の「知」がたどり着いた「構造主義」の視点から、「昔話」「神話」「社会」そして「人間」の構造を分析してみたい。「構造主義」という新しい知識は、きっとみんなの常識や概念、また与えられたこれまでの「教え」を切り崩し、新しい「世界観」をもたらしてくれるはずだ。

まずは「構造主義」とは何か、その基礎基本を学ぼう。そして「言語」や「ものの名前」の意味について考え、「歴史」とはなにか、「文化」とはなにかを探り、「人間の成長」に必要な段階について調べてみよう。私たちが考える「世界」と、旧石器・縄文の人々が思い描いていた「世界」は異なる。魂がどこからやって来てどこに帰って行くのか、古代人がどんなイメージを持っていたのか、そんなことについても探ってみよう。

日常の授業では毎時間「考える」時間をおく。それ以上に生徒自らが「問う」という作業を行う。もちろんその作業の前には「問う」対象をしっかりと調査し把握することが必要になる。調査し考えた中身は常に発表し、総合してまとめ、また振り返る。これら一連の仕事を繰り返し、みんなには5スキルすべての獲得と向上を目指してもらおう。

【学習計画】

期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
前期・後期	①「構造主義」って、なんだろう？	①「構造主義」を知る ソシュール、バルト、フーコー、レヴィ・ストロース、ラカンの仕事	●前半 50 分で新知識に触れ、後半 50 分はチーム毎に具体的な課題に取り組み（または調査し）発表する（授業 2 回分を使ってこれを行う場合もある）。 ●各単元の学習を通じて、問いを立てる練習を行い、最終課題研究論文のテーマ、リサーチクエスチョンの設定に繋げる。 ●6 月中に課題研究テーマ・RQ 設定を終え、中間報告①を行う。
	②昔話の構造分析	②昔話研究 「がらがらどん」「桃太郎」「かぐや姫」「浦島太郎」「食わず女房」「蛇女房」等	
	③神話の構造分析	③神話研究 古事記神話「イザナキ黄泉訪問」とオルフェウス馬娘婚姻譚と養蚕起源神話 ハイヌウェレ神話とバナナタイプ神話 等	
	④「世界」は一つか？	④異境・異界の構造/境界の意味 古代～19世紀末の世界観	
	⑤「歴史」は一つか？	⑤私たちは「進化」している？ 教科書は正しい？	
	⑥子どもから大人へ 成長とは何か？	⑥なぜ語られない「歴史」がある？	
	⑦語られない物語・語られない歴史	⑦「大人」になるとは、どういうことか？ 昔話「三匹の子豚」の構造 「鏡」を見つめる子ども/引き裂かれる子ども	
	⑧「世界」に向かうとは？	⑧構造主義の学びから、「世界」を捉えてみよう！	
	⑨「問い」を立てる	⑨捉えた「世界」に尋ねてみよう！ どんな「問い」を立てる？ 「問う」ことの意味について考える	
	⑩研究する、論文を書くことの意味	⑩研究論文を書いてみよう！	

前期選択者：夏休み前（7月）に研究課題テーマ・リサーチクエスチョンの設定 休暇中に執筆 論文提出は9月中旬

後期選択者：冬休み前（11月）に課題研究テーマ・リサーチクエスチョンについて検討 論文提出は2月中旬

【評価方法】

観点	割合	評価方法
知識・技能	2割	●前期評価は単元毎に課す課題レポートを総合的に行う。後期は最終課題研究論文を評価して行う。年次総合評価は後期最終課題研究論文評価で行う（前期・後期評価の平均ではない）。●3観点「思考・判断・表現力」は思考・コミュニケーション・ソーシャル・リサーチスキルから、「主体的な態度」は自己管理スキルから、また「知識・技能」は学習した新知識がどの程度まで研究の土台になっているか、評価する。
思考・判断・表現	6割	
主体的に学習に取り組む態度	2割	

科目名	自分探しとふれあいの心理学（地球市民Ⅰ）	担当教員の学科	社会科	対象学年	2年
分類（必修・選択必修・自由選択）	選択必修			単位数	1
履修条件	特になし				
履修上の注意事項	コラージュ作成等で素材、ノリ、ハサミなどが必要になることがあります。				
校外研究	なし	研究旅行			
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）	なし	内訳			

【学習内容と目標】

青年期は「子ども」から「おとな」へと成長する過程で不安や悩みも多い時代です。けれど、それは「自分」を創り上げていくための大切な時期であり、自立するための誰もが通る通過点でもあります。

この講座は一人ひとりが「かけがえない存在」であり、尊重されるべき存在であることを大前提に授業を進めていきます。そのために自分を肯定的に見つめること、自分のことばで思いを伝えられる能力を身に付けること、そして自分を信じる力をみんなで養って行こうと思います。

また、社会の一員として生きる者として個々の違いを理解し、他者に寄り添い尊重するための視点を養うことで、人間の弱さから起きる社会問題の解決の糸口、克服の方法を考えていこうと思います。

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1 学期 3 学期	青年期の心理 と課題	人間とは何か？環境と人格形成。 青年期に起きる心の変化。 客観的に自分を見つめ自分の個性を発見する。 あるがままの自分を肯定的に受け入れ、セルフエスティムを高めることを目指します。 自分の思いを他者に伝えること、他者の思いに心を寄せることで「同調」と「共感」の違いを考えます。	コラージュの作成、同じ1枚の絵から一人ひとりが物語を創作するなど、一人ひとり違った個性を持つ存在であることを体感する。 「自分」の心の変化、気づき、視点の変化を感じていきます。 テーマを決めてグループ討議 映画・絵本などを教材にして、それぞれの感想を述べあい、多様な視点、価値観があることを理解していきます。
2 学期 4 学期	現代社会の特質	人間関係の築き方の問題点と対策 (アサーション) 現代社会と人間 (ex) 流行は誰が決めるのか？ パニックの原因 差別の背景 (政治的) 無関心の恐ろしさ 人間疎外…など	グループでロールプレイを実施。 伝える力、聴く力を養い、コミュニケーション自分らしい人間関係の築き方を考えていきます。 過去の出来事や現在問題となっている出来事を新聞、ニュースからテーマを選び解説します。 その上で現代社会に見られる問題点、またそれを克服するために身に付けるべきことはなにかを考えていきます。

【評価方法】

毎回の授業後に授業で感じたこと、考えたこと、また自分に対する気づき変化をまとめる「ふりかえり」を提出してもらいます。また、1 学期（3 学期）・2 学期（4 学期）終了時にレポートの提出を予定しています。

これらの提出物の内容・提出状況、また授業・グループ討議への参加の姿勢、出席状況により評価をします。

科目名	グローバルヒストリーでみる世界（地球市民Ⅰ）	担当教員の学科	社会科	対象学年	2年
分類（必修・選択必修・自由選択）	選択必修			単位数	1
履修条件	なし(社会科目の履修は不問)				
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・知識を詰め込むことはせず、思考のトレーニングを重視する。 ・授業内で討論を行うので、積極的に参加してほしい。 				
校外研究	なし	研究旅行	なし		
講座にかかる費用 (教科書・副教材除く)	なし	内訳			

【学習内容と目標】

歴史学を学ぶ意義は、他者理解にあります。現在の自分とはあまり関係のない人や社会、時代について考察する歴史学を通して他者を理解するスキルを身につけます。とりわけこの授業では、日本史、イギリス史など旧来の一国史の枠にとらわれず、世界全体を一つの空間とし、地球全体で共有されるヒト・モノ・カネ・情報など横の関係性で歴史を捉えることで、地球単位で物事を考察する視角を獲得し、各自が地球市民としての意識を醸成することを目指します。「日本人」という意識がいかに歴史的につくられたもので、現在まで巧みに再生産されてきたかを知ることになるだろう。

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1 学期 3 学期	方法論・研究史 事例検討	グローバルヒストリーとは 世界システム論 文明の衝突 リオリエントなど 砂糖・茶・コーヒーで見る世界	60分程度の講義の後、テーマを絞って討論を考えています。
2 学期 4 学期	事例検討	疫病で見る世界 環境変化で見る世界 世界を見る視点(総括) ※事例検討は受講者のニーズにより変更します。	

【評価方法】

レポート 70%、授業時のコミュニケーションペーパー20%、発言等 10%

科目名	起業家養成塾			教科名	国際(地球市民 I)	対象年次	2年次
分類	選択必修	主たる観点	⑤	併せ持つ観点	③⑥	単位数	1
履修条件	英検準2級以上の英語運用能力。英語でのリサーチやプレゼンテーションに積極的に参加できること。						
履修上の注意事項	土曜日や特別期間などに、特別授業や校外研究が設定される可能性がある。						
校外研究	あり			研究旅行	なし		
講座にかかる費用(教科書・副教材除く)	2000 円程度		内訳 校外研究、交通費+雑費				

【学習内容と目標(5つのスキルをどう伸ばすか)】

世の中にあふれている課題に誰よりも細やかに気づき行動を起こして価値を生み出す人を起業家という。新しいことをゼロから始める起業家には、5つのスキルの全てを伸ばすことが求められる。本講座では、起業家講師による講話や金融機関の実務家による出張授業を通して起業の実例を知ったうえで、生徒の気づきにもとづいた事業を構想する。後半は、ワークショップ形式で実際の事業計画やマーケティング計画などを作成し、日本政策金融公庫「高校生ビジネスプラングランプリ」などのビジネスプランコンテストへ応募して、最終審査への出場を目指す。さらに、希望者は実際の起業活動へ向けた実践的指導も与えられる。

【学習計画(*は実験および実習)】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期 or 3期	顧客視点 校外研究	<ul style="list-style-type: none"> 副教材を用いて起業のあらましを学ぶ。 博物館を訪れ、顧客の生活シーンからのアイデア創出や事業の発展についての考察を行う。 	調査分析した結果の発表を個人で行う。
2期 or 4期	アイデア創出 コンセプト フィージビリティ スタディ マーケティング 資金計画	<ul style="list-style-type: none"> 金融機関の実務家による出張授業を行う。 事業開発の実務について学び、実際に商品やサービスを試作・実施するなどの実習を行う。 ビジネスプランコンテストへの応募を行う。 翌月、ビジネスプランを相互に批評する。 	企画書作成に必要な実務をグループで行うことによって、起業活動への理解を深める。

【評価方法】

観点	割合	評価方法
内容知識	25%	提出物全体、レポートにより評価
技能(思考・判断・表現)	50%	授業での討議、レポートや提出物(「調査」「振り返り」)での批判的思考の程度 発表(グループ発表、個人発表など)での技能
主体的に学習に取り組む態度	25%	提出物(「計画」「行動」)、授業後リフレクション

科目名	エシカルを考える（地球市民Ⅰ）			教科名	国際（地球市民Ⅰ）	対象年次	2年次
分類	選択必修	主たる観点	⑥	併せ持つ観点	⑤	単位数	1
履修条件	特になし						
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日や個別指導期間、夏休みなど不定期に校外研究が設定される可能性がある。 ・個人の研究のために各自、公開イベントや講習などに参加することを課す可能性がある。 						
校外研究	可能性あり			研究旅行	なし		
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）	8,000円程度 ※栽培した和綿から作ったTシャツを購入する場合、+4000円程度			内訳	校外研究の交通費や食費など		

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

エシカル（人間が持つ良心から発生した、倫理的な社会システムを目指す概念）について学び、貧困問題・児童労働問題と私たちの消費生活が、どのように構造的に結びついているかを学ぶ。その解決策について考察し、行動する。それぞれの関心によって取り組むテーマは変わるが、全体で取り組む軸としては「エシカルファッション」を位置づける。その一環として、校内でオーガニックコットンの栽培をする。

5つのスキルについては、まず自身が課題（リサーチクエッション）を見つけ、その問題の構造を分析するための適切な資料・材料を集めることでリサーチスキルを身につける。さらにそれら材料を批判的に分析し、課題解決について考察する思考スキルを最も養いたい。さらに必要に応じてインタビューを行ったり、自身の研究成果を他者と共有し合ったりすることでコミュニケーションスキルを、課題解決に向けて共に活動することでソーシャルスキルを養えると良い。またレポートや発表に向けて計画的に準備することを通して、自己管理スキルも身につける必要がある。

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期 or 3期	<ul style="list-style-type: none"> ・エシカル、SDGsの基礎を学ぶ *メイド・イン・アース「和綿プロジェクト」への参加（講演・糸紡ぎ体験） ・それぞれのエシカルに関するテーマを決め、研究や発表を行う ・文化祭での発表などを含め、行動する ・「グリーン・ウォッシュ」について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・映画「ザ・トゥルー・コスト」などを通じて、エシカルについてファッション分野から考える ・和綿種まき、水やり、糸紡ぎ体験（*） ・ミニテスト ・発表、レポート作成
2期 or 4期	<ul style="list-style-type: none"> ・エシカル、SDGsの基礎を学ぶ *メイド・イン・アース「和綿プロジェクト」への参加（講演・糸紡ぎ体験） ・それぞれのエシカルに関するテーマを決め、研究や発表を行う ・卒論を念頭に置きながら、研究テーマを考える ・「グリーン・ウォッシュ」について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・映画「ザ・トゥルー・コスト」などを通じて、エシカルについてファッション分野から考える ・綿の収穫、糸紡ぎ体験（*） ・ミニテスト ・発表、レポート作成

【評価方法】

観点	割合	評価方法
知識・技能	10%	ペーパーテスト
思考・判断・表現	85%	発表・エッセイ等
主体的に学習に取り組む態度	5%	感想文などの提出物

科目名	パラドクスから見る人間社会			教科名	国際（地球市民Ⅰ）	対象年次	2年次	
分類	選択必修	主たる観点	④	併せ持つ観点	①②③⑤⑥		単位数	1
履修条件	履修条件は特にないが、以下の「履修上の注意事項」に留意すること。							
履修上の注意事項	『数学Ⅰ』の2章「集合と論証」と5章「データの分析」、『数学A』の1章「場合の数と確率」に含まれる基本的な概念に習熟していることが望ましい（計算のスキルは問わない）。また、そのような概念を用いた思考に苦痛を感じないことが望ましい。							
校外研究	なし			研究旅行	なし			
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）	なし			内訳				

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

合理的に思える前提と合理的に思える推論から不合理に思える帰結が生じる状況を「パラドクス」という。パラドクスには論理的な遊びのようなものもあれば現実の人間社会に深く関わるものもある。この講座では、パラドクスを通して論理的思考や社会的意思決定を学んでいく。

最終的には、自らの問題を「パラドクス」あるいはそれに類する形式で提示して論理的に分析することを目指す。

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期 or 3期	第1章 概念と推論	概念化や推論にまつわるパラドクスを見ながら、論理的思考に関する知識・技能を学んでいく。 【扱う話題：パラドクスの例】 真と偽：自己言及のパラドクス 演繹：砂山のパラドクス 帰納：確証のパラドクス 時間と空間：ゼノンのパラドクス 無限：カントールのパラドクス	題材についてよく考え、議論に参加する。 各回の授業の最後にリフレクションを提出する。 単元の最後に、論理的思考に関する知識・技能を評価するための試験（評価全体の40%）を実施する。
2期 or 4期	第2章 意思決定	確率・統計・ゲーム理論といった分野におけるパラドクスを見ながら、社会における意思決定に関して考えを深めていく。 【扱う話題：パラドクスの例】 条件付き確率：陽性のパラドクス 統計と母集団：シンプソンのパラドクス 期待値と期待効用：ペテルブルク・パラドクス ゲーム状況での意思決定：囚人のジレンマ 民主主義的意思決定：投票のパラドクス	題材についてよく考え、議論に参加する。 各回の授業の最後にリフレクションを提出する。 単元の最後に、社会的意思決定に関するテーマで、思考・判断・表現を評価するためのレポート（10段階評価の4点分）を提出する。

【評価方法】

観点	割合	評価方法
知識・技能	40%	授業内の試験（第1章）
思考・判断・表現	40%	期末レポート（第2章）
主体的に学習に取り組む態度	20%	各回のリフレクション

科目名	状況下をえがく文学作品、映画をよむ			教科名	国際（地球市民Ⅰ）	対象年次	2年次
分類	選択必修	主たる観点	②	併せ持つ観点	①⑤	単位数	1
履修条件	なし。書籍を読み映画を観て、状況下の人間について考えたい人。						
履修上の注意事項	<p>○書籍（長編）、映画をたくさん読み、観ることになります。</p> <p>○映画は基本的に動画配信サービス（Amazon プライムビデオ、Netflix など）を利用し、自宅などで視聴してもらいます。できるだけ可能な環境を作ってください。DVDをお貸しすることができます。</p>						
校外研究	なし			研究旅行	なし		
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）	10,000円程度			内訳：	書籍代、映画視聴料		

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

現在の社会における諸問題について、映画と文学作品を読み解くことを通して考えたい。特に格差、労働、差別について考える。

人間がどのように社会と現実に向き合っているのか、現在の自分が立っている時間と空間をどう捉えるのか、差別や抑圧、社会の圧力から脱することはどのようになされるのか、人間社会のありようを自分なりの論を立てて記述をする。文学作品、映画作品の文脈を正しく理解し、研究課題を得るためには、リサーチスキル、ソーシャルスキル、思考スキルを必要とする。各回の提出物は自己管理スキルが必要である。授業での議論においてはコミュニケーションスキルを養うことができる。論点の決定、エッセイの執筆においては、すべてのスキルを必要とし、伸ばすことができる。

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期 or 3期	状況のなかの人間	扱う作品は、別途連絡します。 (例：ディストピア小説、現在の社会を写す映画)	<ul style="list-style-type: none"> ・初読時ノート ・質問づくり ・ディスカッション ・リフレクション ・個人エッセイ
2期 or 4期	極限と人間	扱う作品は、別途連絡します。 (例：日本の貧困、SF小説)	<ul style="list-style-type: none"> ・初読時ノート ・質問づくり ・ディスカッション ・リフレクション ・個人エッセイ

【評価方法】

観点	割合	評価方法
知識・技能	10 %	作品についての発表
思考・判断・表現	60 %	授業での議論、論点、最終エッセイ
主体的に学習に取り組む態度	30 %	初読ノート、作品リフレクション、授業での議論

科目名	「人」たる「ヒト」を探る（地球市民Ⅰ）	担当教員の学科	理科	対象学年	2年
分類（必修・選択必修・自由選択）	選択必修			単位数	1
履修条件	特になし				
履修上の注意事項	科学的手法に基づいた議論、「文化的なバイアス」を外して捉える視点・議論での「ヒト」の探究に興味を持ち続けることが求められます。				
校外研究	実施予定	研究旅行	なし		
講座にかかる費用 （教科書・副教材除く）	校外研究の交通費	内訳 生麦から往復千円から二千元程度			

【学習内容と目標】

ヒト（*Homo sapiens*）を含めた化石人類を捉え直すことは、「人」を捉えなおし、「地球市民」として私たちが選択していく視点を考察することに資するはずである。「これまでの人類を科学的」な捉え方によって探り、ヒトを考える講座として設置します。講座では、ヒトを科学的（自然人類学的）に捉えなおす手法を学び、資料（根拠）に基づいて、「ヒトとは、どのような動物で、どのような人類であるかを議論する」ことを目標とします。合わせて、科学的なエビデンスに基づいた議論の構築を習得し、地球市民Ⅱに設置される理科科目での研究に資することも目的とします。

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1学期 3学期	自然人類学の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・生物学的に人類を捉える手法 ・霊長目、ヒト上科（ホミノイド、類人猿）、人類（ホミニン）の比較手法 ・ホミノニンの比較手法 ・ホミノニンの各属の比較手法 （校外研究は、国立科学博物館を予定）	チームで比較手法のワークを通じて学び、生物学（科学的）なヒトの把握を習得するとともに科学的に比較する手法を習得。科学的議論の構築方法をプレゼンテーションも通じて習得する。 本校の化石人類模型を活用します。
2学期 4学期	自然人類学の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ホミノニンの生態学的側面 ・ホモ属の生態学的側面 ・サピエンスの生態学的側面 ・サピエンスの現在に至る側面 	チームおよび個人研究として、生態学的比較研究（議論）を行う。 研究課題を立て、科学的議論をプレゼンテーションで示し、研究レポートを制作。

【評価方法】

プレゼンテーションの評価、およびレポート評価（小テストを含むこともある）。なお、レポートは、「小課題的な（論ずべき課題を細かく示した）もの」で習得すべき内容理解の達成度も測り、小テストで補完することもある。

科目名	環境化学入門	担当教員の学科	理科	対象学年	2年
分類 (必修・選択必修・自由選択)	選択必修			単位数	1
履修条件	2年次に「化学への橋渡し」を履修している事				
履修上の注意事項	自身で研究トピックを選定し、リサーチクエスチョンを立てます。実験方法も自分で組み立てることになります。ですから、環境問題に関心があるだけでなく、研究に主体的に取り組んでみたいという意欲が求められます。				
校外研究	なし	研究旅行	なし		
講座にかかる費用 (教科書・副教材除く)	なし	内訳			

【学習内容と目標】

環境問題について、自然科学、特に化学分野の視点から課題を見つけ、その課題を解決する、あるいは、その課題に関連する研究トピックを選定します。その後、研究トピックのリサーチクエスチョンをたて、具体的な研究アプローチを作成します。水のこと、大気のこと、土壌のことなど、身近な環境問題について自分なりの視点で課題設定します。研究の内容も高校生らしい発想を期待しています。研究トピックやリサーチクエスチョンの設定など、一つ一つを担当教員と相談しながら、少しずつ取り組んでいきます。

【学習計画 (*は実験および実習)】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1 学期 3 学期	研究トピックの決定	① ガイダンス ② 環境問題についての調査 ③ 環境問題の調査結果発表 ④ 研究トピック検討 ⑤ 研究トピック発表	まずは、環境問題にはどのような問題があるのかを知ることから始めます。 その上で、関心を持った課題について、化学的視点で研究トピックを選定します。
2 学期 4 学期	リサーチクエスチョン ／研究方法 の決定	⑥ リサーチクエスチョン検討 ⑦ リサーチクエスチョン決定 ⑧ 研究方法検討 ⑨ 研究方法検討 ⑩ 研究方法決定 ⑪ 研究概要の発表 (トピック、リサーチクエスチョン、研究方法)	選定した研究トピックに具体的なリサーチクエスチョンをたてます。 そのリサーチクエスチョンに応えるための研究方法を自身で作成します。

【評価方法】

知識・技能 (3割程度) : 環境問題の調査の発表内容

思考・判断・表現 (5割程度) : 研究トピックの発表内容、研究概要の発表内容、議論への参加状況

主体性 (2割程度) : 環境問題の調査、研究トピックやリサーチクエスチョンの選定、研究方法決定への取り組み状況

科目名	美術史における絵画表現の研究			教科名	国際（地球市民Ⅰ）	対象年次	2年次	
分類	選択必修	主たる観点	③	併せ持つ観点	①⑥		単位数	1
履修条件	美術Ⅰを履修していることが望ましい。							
履修上の注意事項	デッサン用具（鉛筆・練ゴム・スケッチブック・クロッキー帳）水性絵具のセット（絵具・筆・水入れ・パレット）が必要です。美術Ⅰを履修している人は授業で使用したものをそのまま継続して使用します。その他、各自で必要と思われる画材・道具を用意できるようにしてください。							
校外研究	各自で美術館へ行き鑑賞活動をする必要がある場合がある			研究旅行	なし			
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）	2000～3000円 （共同購入の他に個人的に使用する使用する道具は自ら用意する必要があります。）			内訳：パネル・描画材など				

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

歴史の中で絵画作品はどのような役割を担ってきたか、また絵画の技法や材料は世界の各地域においてどのような変遷をたどってきたかを比較研究する。主に日本画と西洋絵画の伝統的な技法・材料を学び、美術史的文脈を理解することによって自身の表現の幅を広げていく。5つのスキルについては下記の通り。

- ◆思考スキル・・・演習課題・素描・作品制作を通して技術を表現や発想につなげられるようにする。
- ◆コミュニケーションスキル・・・講評会での発表を通して自身が作品を通して何を表現したいのかを鑑賞者に伝える。また、他者の作品の発表を見て自身がどのような影響を受けたかを考える。
- ◆ソーシャルスキル・・・作品の鑑賞や研究課題を通して美術史的な文脈の中で芸術作品の役割の変遷を考え、現代における美術作品の立ち位置を考える。
- ◆自己管理スキル・・・制作計画を立てる、各課題でのワークシートでのフィードバックを行う
- ◆リサーチスキル・・・研究課題やワークシートを通して適切なテーマや研究対象の選定を行う。作品制作を通して自身の制作に必要なテクニックや表現方法を習得する。

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期 or 3期	・技法演習 ・素描 ・日本画演習	・ハッチング技法を使用した描画の練習 ・素描 ・日本画技法の学習と制作	・テンペラ画で使用されている「ハッチング」という技法を用いる練習をする ・実作品制作に向けての素描を行う。 ・日本の絵画において伝統的に使用されてきた「岩絵具」・「膠」を用いて作品を制作する。
2期 or 4期	・テンペラ演習	・テンペラ技法を用いて西洋の宗教画を模写する	・西洋において「油彩画」が広まる以前に用いられていた「テンペラ」という古典技法を学習し、作品を制作する。顔料・メディウム・支持体に関する理解を深める。

【評価方法】

観点	割合	評価方法
知識・技能	45～50%	演習課題・素描
思考・判断・表現	30%	作品の表現・アーティストステートメントでの作品の解説・研究課題（レポート）
主体的に学習に取り組む態度	20%	授業への出席・アーティストステートメント・各課題のワークシート

科目名	ピアノ演奏法			教科名	国際（地球市民Ⅰ）	対象年次	2年次	
分類	選択必修	主たる観点	③	併せ持つ観点	①②		単位数	1
履修条件	ピアノ演奏経験があること							
履修上の注意事項	現在継続中、または再開したい、 ピアノを弾くことが好き、であれば演奏曲はクラシック以外でも可。							
校外研究	未定			研究旅行	無し			
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）				内訳				

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

音楽日々多様化している今、ピアノを弾くという固定の認識から、楽譜を手掛かりに自身の心、聴覚、身体の中でその演奏がどのように繋がっていくかを模索していく。

1. 自分の演奏と向き合い、楽譜から作曲者が何を演奏者に要求してるか、読み解いていく。
2. 自分以外の演奏を聴くことによって、他者の演奏に対する気づき、音楽の繋がりを持つ。
3. 演奏を通して、今の自分が音楽をどう関わらせていくか、思考していく。
4. 耳からだけでなく、楽譜からの楽語、記号などを自分から興味を持ち調べていくこと。
5. 演奏を完成させるまでの取り組み方、計画性を養う。

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期 or 3期		<ol style="list-style-type: none"> 1. ピアノ演奏とは？ 2. 個々選んだ曲を演奏(途中経過で可) 3. 個人レッスンを通して曲を完成させていく。 	演奏曲の選定 自分以外の演奏を聴き感想を述べ合う。 必ず全員が聴講、楽譜をチェックしながら自分の演奏と関連することを学ぶ。
2期 or 4期		<ol style="list-style-type: none"> 4. 中間発表 5. 演奏発表 6. レポート提出 	受講者がそれぞれの講評を述べる。 それぞれの講評。 演奏発表した曲について。

【評価方法】

観点	割合	評価方法
知識・技能	50%	演奏発表
思考・判断・表現	40%	レポート
主体的に学習に取り組む態度	10%	授業での積極的な取り組み

科目名	音楽と社会のつながりを考える - 「音楽アウトリーチ」の活動を通して -			教科名	国際（地球市民Ⅰ）	対象年次	2年次	
分類	選択必修	主たる観点	③	併せ持つ観点	① ・ ②		単位数	1
履修条件	「音楽アウトリーチ」活動では校外に出て演奏を行う予定です。種類は問いませんが、楽器経験（歌でも結構です）のある方に履修していただきたいと考えます。							
履修上の注意事項	本講座は芸術科（音楽）が開講する講座ですが、必ずしも演奏中心の講座ではありません。学習計画を確認し、希望内容と実際の学習内容との間にミスマッチが起こらないよう注意してください。							
校外研究	音楽アウトリーチの現場を見学する予定です。			研究旅行	実施しません。			
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）	上記校外研究時の交通費		内訳					

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

【学習内容と目標】

音楽と社会とのつながりについて、主として「音楽アウトリーチ」の活動に焦点を当てて学んでいきます。そして、学んだことを踏まえ、抽象的表現ではありますが、“音楽がもつ力”や“音楽が人にあたえる影響”について考えていきます。

1. **思考スキル** 普段音楽に触れる機会の少ない人たちに対して、どのように興味を持ってもらうか？様々なアイデアを出しながら試行錯誤する中で、思考スキルを磨いていく。2. **コミュニケーションスキル** 「音楽アウトリーチ」の企画や実際に計画を立てて動いていく中で、他者との協働を通じてコミュニケーションスキルを伸ばしていく。3. **ソーシャルスキル** 学習計画では校外にもでていく予定であり、学外の人（たち）との関わりを通してソーシャルスキルを磨いていく。4. **自己管理スキル** ゴール設定や期限を明確にすること。そして、そこに向かって努力を重ねていく中で、やるべきことの量・質を理解し、適切な取り組みを行い自己管理スキルを磨いていく。5. **リサーチスキル** 信憑性の低い情報に惑わされることなく、自分に必要な情報を自らきちんと得るためのリサーチスキルを身に付けられるようにする。

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期 or 3期	【導入】 ① 「アウトリーチ」とは ② 「音楽アウトリーチ」の基礎知識 ③ 「音楽アウトリーチ」の実践例紹介 ④ 外部講師による出前授業	「アウトリーチ」について学ぶ 「音楽アウトリーチ」の基礎知識を身につける 「音楽アウトリーチ」の実践例を学ぶ 実際に「音楽アウトリーチ」を实践されている方による演奏と講話	
2期 or 4期	【実践】 ① 音楽と社会とのつながりを考える 「音楽アウトリーチ」活動 ② まとめ	「音楽アウトリーチ」を主眼として、音楽と社会とのつながりについて考える。 実際に校外に出ての「音楽アウトリーチ」活動 レポート作成、「音楽アウトリーチ」活動の記録提出	

【評価方法】

観点	割合	評価方法
知識・技能	60%	「音楽アウトリーチ」の実践における成果、レポート、活動記録の提出
思考・判断・表現		同上
主体的に学習に取り組む態度	40%	「音楽アウトリーチ」活動への取り組み

科目名	人間以外の動物との共生			教科名	地球市民 I	対象年次	2年次
分類	選択必修	主たる観点	①	併せ持つ観点	⑤・⑥	単位数	1
履修条件	動物に対して興味関心を持ち、共生をするためにより良い方法を考えようとする人						
履修上の注意事項	動物に関する様々な事柄に興味関心を持ち、レポート作成、発表、意見交換などを通して、お互いに学び合い、共に考えていこうとする積極的な姿勢が必要。						
校外研究	なし			研究旅行	なし		
講座にかかる費用 (教科書・副教材除く)	なし			内訳			

【学習内容と目標 (5つのスキルをどう伸ばすか)】

1 思考スキル	動物を取り巻く問題点、「共生」を目指しての改善点、改善方法などを多角的な視点から分析し、掘り下げて考える姿勢。
2 コミュニケーションスキル	自らの考えを他者にわかりやすく表明するとともに、他者の意見を聞き入れる姿勢。
3 ソーシャルスキル	ネットや書籍などで調べることに留まらず、問題意識を持って問題が起きている現場 (社会) に足を運び見聞する姿勢
4 リサーチスキル	問題意識、目的を明確にし、問題の背景、関連する事柄、その問題に対するさまざまな見方を多角的に調べる姿勢
5 自己管理スキル	課題の取り組みや学習計画の実践・達成度等

【学習計画 (*は実験および実習)】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期 or 3期		<ul style="list-style-type: none"> 人間以外の動物に関する国内外のニュース、新聞記事、ネット記事、映画、ドキュメンタリー番組などを用いてさまざまな問題を知る。 各自、またはグループで関心を持った動物に関する問題をリサーチし、紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 動物に関するさまざまな問題に興味関心を持ち、自分なりの考え、意見を相手に伝える力を養う。 個人、またはグループで関心を持った動物に関する問題をリサーチし、他へ紹介することで問題への関心・理解を深める。
2期 or 4期		<ul style="list-style-type: none"> 自分が一番興味関心を持った問題を選び、その問題が起きている実状を詳しく調べる。 調べる中で「課題」を見付け、その課題に対して、何をどのようにしていくべきかについて考えを深める。 個人発表会、研究レポートの作成と提出。 	<ul style="list-style-type: none"> もっとも関心を持つ問題をさらに掘り下げ、その中で「課題」を絞り、その課題に向けての対策を考えていく。 調べたことを通して、自分なりに考察を深め、問題解決に向けての具体的な対策を考えていく。 個人発表、研究レポートを通して互いに学び合う。

【評価方法】

観点	割合	評価方法
知識・技能	30%	個人レポート。リサーチクエスチョンを展開していくために必要となる十分な知識を得ているか、分かりやすく話が展開できているか。
思考・判断・表現	50%	個人レポート。リサーチクエスチョンを展開し、問題を分析し、自分なりに考察を深め、分かりやすくまとめて他者に伝えられているか。
主体的に学習に取り組む態度	20%	授業内で出す課題に取り組み、提出期限までに十分な内容を伴って提出。

科目名	Language, Laughter and Humor			教科名	国際（地球市民Ⅰ）	対象年次	2年次
分類	選択必修	主たる観点	③	併せ持つ観点	①	単位数	1
履修条件	特になし。ペアやグループでの話し合いを中心に授業が進むので、オープンマインドであること。						
履修上の注意事項	授業内で漫才やコントなどの作品を日本語・英語で発表することになる。						
校外研究	ルミネぎよしもと			研究旅行	なし		
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）	2500円程度		内訳 ルミネぎよしもと観劇				

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

Thinking skill

お笑いの作品を日本語・英語で作成することや、research paper/essay を作成することを通じて、thinking skills を育む。

Research skill

笑いやユーモアに関する article を日本語、英語で読み、humor や laughter に関する理解を深める。また、research paper を作成する際に必要な論文・エッセイの構成及びその research method についても学ぶ。

Social skill

お笑い（漫才やコント）をペアやユニットで話し合いながら作成することを通じて social skill を育む。

Communication skill

お笑い（漫才やコント）をペアやユニットで日本語・英語で発表することを通じてコミュニケーションスキルを育む。

Self Management skill

授業内で学んだ内容を元に、振り返りを毎授業書くことを通して、自らの学びを内在化させることを行う。また、発表を通じて peer feedback を得る機会を持つとともに、自らの学びを客観的に捉えなおすことを行う。

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期 or 3期		ユーモアに関する文献や作品を英語や日本語で読む、観るなどして、関連する内容の理解を深める。 漫才・コントなどのお笑いの作品を日本語・英語で作成、クラス内で発表する。	*漫才・コントの発表は初めは日本語で慣れ、その後英語に移行していく予定。（随時受講者の様子を見て検討もする。）
2期 or 4期		ユーモアに関する文献や作品を英語や日本語で読む、観るなどして、関連する内容の理解を深める。 漫才・コントなどのお笑いの作品を日本語・英語で作成、クラス内で発表する。	ルミネぎよしもと観劇

【評価方法】

観点	割合	評価方法
知識・技能	40~50%程度	レポート課題（最終レポートは英語で書く）
思考・判断・表現	40~50%程度	プレゼンテーション（漫才・コントなどのお笑い作品を日本語・英語で発表）
主体的に学習に取り組む態度	10~20%程度	授業の振り返り（英語・日本語でのリフレクション）など

*発表やレポートは英語でのアウトプットの機会もよくあるが、主に内容を重視して評価するので、特別に英語は得意でなくても内容に興味関心があれば受講は可能。

科目名	多文化共生と日本語教育			教科名	国際（地球市民Ⅰ）	対象年次	2年次
分類	選択必修	主たる観点	⑥	併せ持つ観点	①⑤	単位数	1
履修条件	ことばや日本語教育に興味関心がある人						
履修上の注意事項	意見交換やレポート作成、発表に意欲的に取り組む姿勢が必要。						
校外研究	なし			研究旅行	なし		
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）	なし			内訳			

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

真の多文化共生社会の実現に向けて何が必要か、日本語教育の観点から考える。特に海外にルーツをもつ子どもの日本語支援について取り上げる。ことばと社会のつながり、ことばを学ぶとはどういうことかを理解し、社会が抱える問題を見出し、その解決策を考える。多角的な視点から分析し、掘り下げて考え、思考スキルを身につける。コミュニケーションスキルとして自らの考えを他者にわかりやすく表明するとともに、他者の意見を聞き入れる姿勢をもつ。ネットや書籍などで調べることにとまらず、問題意識を持って問題が起きている現場（社会）に足を運び見聞するソーシャルスキルを養う。問題意識、目的を明確にし、問題の背景、関連する事柄、その問題に対するさまざまな見方を多角的にリサーチするスキルを身につける。課題の取り組みや学習計画の実践・達成度等を自分で管理するスキルを身につける。

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期 or 3期	海外ルーツの子どもの日本語教育 or 外国語としての日本語	<ul style="list-style-type: none"> 海外にルーツをもつ子どもの教育の実態を知り、学ぶ権利について考える。子どもたちが経験する異文化適応とは何か、アイデンティティの問題についても考える。 外国語として日本語をとらえる。普段何気なく使っていることばを見直し、日本語学習者にとって日本語はどのような点が難しいのか、具体的な例をあげて分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習を通して、ことばと社会のつながり、ことばを学ぶ意味について考える。 さまざまな問題に興味関心を持ち、自分なりの考え、意見を相手に伝える力を養う。
2期 or 4期	多文化共生とやさしい日本語 or 個人発表	<ul style="list-style-type: none"> 多文化共生社会を目指して、ことばのバリアフリーをどのように促進できるか、「やさしい日本語」の役割について考える。 多文化共生社会における日本語教育に関連して自分が一番関心を持った問題について調査し、レポートにまとめ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のこれまでの経験なども踏まえて、今ある問題を社会の一員である自分の問題としてとらえ、課題を見出し、解決に向けて自分たちに何ができるかを考える。

【評価方法】

観点	割合	評価方法
知識・技能	30%	個人レポート。リサーチクエスチョンを展開していくために必要となる十分な知識を得ているか、分かりやすく話が展開できているか。
思考・判断・表現	50%	個人レポート。リサーチクエスチョンを展開し、問題を分析し、自分なりに考察を深め、分かりやすくまとめて他者に伝えられているか。
主体的に学習に取り組む態度	20%	授業内で出す課題に取り組み、提出期限までに十分な内容を伴って提出。

科目名	現代の和服			教科名	国際（地球市民Ⅰ）	対象年次	2年次
分類	選択必修	主たる観点	3	併せ持つ観点	6	単位数	1
履修条件							
履修上の注意事項	浴衣の着装実習を行いますので浴衣一式を用意してください 【男物浴衣・腰ひも1本・角帯】 または 【女物浴衣・腰ひも2本・半幅帯】 ※一般的に浴衣は5～8月ごろ店頭に並びます。受講にあたって浴衣や帯を新たに購入する必要がある人は購入時期に注意してください。（ネットショップ等では通年購入できます。）						
校外研究				研究旅行			
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）				内訳			

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

和服は日本の伝統衣服だが、和服についてよく知らない日本人は多い。
 文化を継承するとはどういうことか。和服にもっと親しみ、次世代に伝えていくためにはどうしたらよいのか。
 和服について学び、実際に着てみることを通して、現代人と和服との関係について考えていく。

- ・思考スキル：現代の和服の在り方や課題について考え、意見をまとめる。
- ・コミュニケーションスキル：ほかの受講者と意見交換をする。
- ・ソーシャルスキル：発表者に対して質問（リアクション）を返す。
- ・自己管理スキル：着付けの練習をしながら、自分の着姿を客観的に観察し、改善する。課題のスケジュール管理をする。
- ・リサーチスキル：幅広く情報を集め、それらを適切に解釈・考察する。

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期 or 3期	和服を知る	1.和服の構造・各部の名称 2.格と衣替え・管理方法 3.和服の慣習から見る人々の暮らしと価値観 4.服装史・着物が現代の衣服に与えた影響	・和服の基本的な扱い方やルールを学びます。 ・また、その慣習の背景にある事情や当時の人々の価値観についても考えていきます。
2期 or 4期	和服を着る	5.浴衣の着装方法と着付けのポイント 6.浴衣の着装練習① 7.浴衣の着装練習② 8.浴衣の着装テスト 9.和服を楽しむ 10.現代の和服の可能性と課題	・浴衣の着装方法を学び、和服の着付けの基本を理解します。 ・現代人が和服を活用してもっと楽しむ方法を考えます。

【評価方法】

観点	割合	評価方法
知識・技能	50%	和服を扱うための基本的な知識・技能の評価（授業内小テスト・着装テスト）
思考・判断・表現	40%	レポートまたは発表
主体的に学習に取り組む態度	10%	提出物（コメントシート・小課題）・平常点

科目名	プレゼンテーション演習			教科名	国際（地球市民Ⅰ）	対象年次	2年次
分類	選択必修	主たる観点	③	併せ持つ観点	①、②	単位数	1
履修条件	特になし						
履修上の注意事項	Macを使用することが多い。 受講生の習熟度や要望に応じて難易度や内容を多少変更することがある。						
校外研究	なし			研究旅行	なし		
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）				内訳			

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

半年間に複数回のプレゼンテーションの実践を行ないつつ、相互評価を行ない「コミュニケーションスキル」を中心に能力の育成をはかる。具体的には、

- ①プレゼンテーションの準備や構成（「思考スキル」・「リサーチスキル」）
- ②スライドの制作・本番までの管理（「コミュニケーションスキル」・「自己管理スキル」）
- ③本番時の発表態度・相互評価（「コミュニケーションスキル」・「ソーシャルスキル」）

を総じて実践することとなる。

また、対面型のプレゼンテーションだけでなく、オンラインや動画で撮影する形式でのプレゼンテーションの実施も行うことで、様々な制約や状況下でのプレゼンテーションに対応できる方法も紹介する。

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期 or 3期	プレゼンの基本 話し方 レイアウト	良いプレゼンテーションの分析 伝わりやすい話し方の理解と実践 デザインの基本 スライドデザイン	良いプレゼンテーションとは何かを動画視聴や実践の中で分析する 自分の話し方の特徴を分析、伝わりやすい表現を身につける 伝わりやすいデザインを理解し、アニメーション等も駆使したスライドを実践する
2期 or 4期	プレゼンテーションアプリの比較 ビデオプレゼン	プレゼンアプリによる表現方法の違い 用途に応じたアプリの選択 リモート下などの制約がある中での効果的なプレゼンの実施	あらゆる状況下・ソフトウェアにおいても、効果的なプレゼンテーションを行なう方法や技術について学び、実践する リモートや録画を行なう場合での効果的なプレゼンの実施方法について学び、実践する

【評価方法】

観点	割合	評価方法
知識・技能	40%	最終プレゼン動画
思考・判断・表現	40%	最終プレゼン動画、中間課題
主体的に学習に取り組む態度	20%	各回授業の課題の提出等